



日本語教師
のための
実践七講

AUDING

〔ó:ding〕

江副勢津子の
初級日本語教室

発行 **Free** フリー・クリエーション

発売 にほんこの **凡人社**

オーディン——日本語教師のための実践七講
江副勢津子 著

1991年 10月15日 第一刷

著 者—江副勢津子

発 行 者—渋谷 光一

印刷製本—サンエー工芸株式会社

発 行—株式会社フリー・クリエーション

東京都新宿区三栄町14番地エイシンビル

電話(03)3355-5447(代) 郵便番号160

発 売—株式会社 凡 人 社

東京都千代田区麴町6-2

麴町ニュー弥彦ビル2F

電話(03)3472-2240

郵便番号102

定価はカバーに表示してあります

ISBN4-89358-138-4 C3081

©SETSUKE EZOE 1991 printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします

本書のご注文は発売元にお問い合わせください

前書きにかえて——私自身のこと

「先生が足りないのです。教えにきてくれませんか」——たったそれだけのことが、私の一生を決めたといつてもいいでしょう。

もう三十数年も前のことです。当時、私の通っていたカトリックの田園調布教会にミサをたてにこられる神父のひとりに、聖フランシスコ会のベアトス神父という方がいらつしやいました。ベアトス神父はその頃はまだ静かなたずまいの街だった六本木にある「聖ヨゼフ日本語学院」というカトリックの神父を対象にした日本語学校の校長でした。聖歌隊にいた私とはかねてから多少の面識もあり、また夫が学院の教本や教材づくりのお手伝いをしていたというような縁もあつて、ある日、不意にその声をかけられたのです。

深く考えることもなく私は「はい」と返事をしていました。高名なベアトス神父のお役に立てるといふのは信者として無上の喜びです。そして何よりも、私は怖いもの知らずのとんだおつちよこちゃいだったのです。日本人の自分が日本語を教えることなど造作もないことだ、とそんな軽い気持ちでした（それがどれほど甘い考えであつたか——でもその時のほんの軽い気持が、私が日本語教育に生涯を捧げるきつかけとなつたのですから、人生というのは本当に不思議なものです）。

その頃、革命で中国を追放されたカトリックの宣教師・宣教女が、いったんそれぞれの本部に戻つて休養兼司牧をしていたのですが、彼らの東洋布教への熱ついに冷めやらず、折から次々と日本に出向いてきていました。カトリック宣教師のための日本語学校はもうひとつ神奈川県の田浦というところにもありましたが、そちらはイエズス会員のためのもので、他の宣教師はみんな「聖ヨゼフ

日本語学院」の門をくぐったのです。

彼らはわずか半年の速成日本語教育の修了も待ちきれぬようにして、すぐ任地へと出向いていました。布教にかけるその情熱を笑い話にする気など毛頭ありませんが、thinkとbelieveを区別する語彙がなくて「明日、雨が降ると信じ奉る」などといつてみたり、「接吻」と「切腹」をとり違えて「十字架に切腹しなさい」、また「幸福」と「洋服」の音が一緒で「天国の洋服は永遠に続く」など、何とも珍妙な説教が祭壇上から無邪気におこなわれることになったのも事実です。

「聖ヨゼフ日本語学院」の教科書は、アメリカ陸軍が戦時中に開発したという、プロッホ教授の「スポークン・ジャパニーズ」でした。後でふれるエリノア・ジョーデン教授の「ビギニング・ジャパニーズ」のいわば先駆ともいえるもので、文章も文法もすべてローマ字で表記されていました。

この本を唯一の頼りに私のかげだしの教師生活が始まったのですが、そんなある日、ひとりの宣教師生徒から「先生、日本語でよく使われる「が」と「は」の違いを教えてください」と質問されて、はたと困ってしまいました。ものごとろついで以来慣れ親しんできたはずの日本語、でも一度として「が」と「は」の違いに気をとめたことなどなかったのですから。

私はさっそく先輩教師に尋ねました。でも、相手は何でそんな判りきったことを聞くのかといわんばかりに一冊の言語学の本を手渡してくれただけでした。しかし、それは文法の「解説」ではあっても、ことばの実際の使い分けを教えてくれるものではありませんでした。その学生にしてみても先刻「文法書」を読み、講義も聞き、それでも理解できなくて日本人の私に尋ねてきたに違いありません。

大事なものは文法ではなく教え方なのだというところに私は初めて思いました。思えばそれが「日本語」との本当の出会いだったのです。

日本語教師としてやっとひとり歩きを始めたばかりの私にとって、ジョーデン教授の「ビギニング・ジャパニーズ」が何よりの導き手となりました。「ビギニング・ジャパニーズ」は当時としてはきわめて先覚的な「オーディオ・リンガル・メソッド」に基づいていましたし、一九六二年にこの教授法を携えて来日したヘンネ教授の講義も受けることができて、私は「直接法」という斬新な教え方

に目を見開かされたのです。ある時、ひとりの修道院長が「今度の新しい教え方の成果は実にすばらしい。かつてわれわれが最初の一言を発するのに何ヵ月もかけたことを思うとまるで夢のようだ」という感想を述べられました。一冊の指導書だけを頼りに、私の「直接教授法」はまだほんの緒にいたばかりでしたが、その手探り状態の中でも、日本語教育が今まさに大きく変化しようとしていることを大きな感激とともに感じないわけにはいられませんでした。

第二ヴァチカン公会議(1962-65)は、旧弊な規則にがんじがらめになっていたカトリック教会に、新鮮な空気を吹き込むすばらしい改革をもたらしました。信者にとっても喜ぶべきことであつたには違いありません。しかし、その一方で神父や修道女になろうという若者を激減させる結果ともなりました。以来、来日する宣教師の数は目に見えて減っていき、「聖ヨゼフ日本語学院」もその存続すら危ぶまれるような事態になつてしまつたのです。

日本語教師を一生の仕事とも考えるようになっていた私にとって、これ以上はない衝撃でした。生涯の夢がその舞台ともども一挙に喪われてしまつたのですから。今から思えば無謀以外の何ものでもなかつたのですが、夫と私はついに自分たちの「日本語学校」の創設を決意しました。当然、周りの誰もが驚き、そして強く反対しました。当時、外国人といえは宗教家を除けばせいぜい駐留米軍人とその家族、そしてわずかばかりの外交官ぐらいなものでしたから、民間日本語学校の経営などまったく絵空事でしかない時代だったのです。でも私たちはまさにその「無謀」な情熱にこそ賭けてみようとしたのです。

私たちはまず、教師の養成から始めました。素人に教師を任せるわけにはいかなからです。カリキュラムは自分たちの手づくりでした。それまでの経験に基づく教え方の実際——いわば手の裡の披露以外の何ものでもありませんでしたが、そうやって育てた第一期生の教師とともに一九七五年、ついに『新宿日本語学校』は誕生しました。

開校式には百五十人のお客様が見えました。しかし期待に胸をふくらませて開いた学籍簿に登録されていた学生は、たつた二人だけだったのです。——それでも授業は始まりました。そして、授

業が終わると毎日新宿駅まで出かけていって、外国人と見るや学生募集のチラシを配って歩くのが日課となりました。教師養成講座にもこれまで以上に熱意を傾けました。教える側も教わる側も夢とやる気がみなぎっていました。みんな若かったし、苦勞なんて何でもなかったのです。その後、私自身も主人の国際交流基金派遣に伴ってシンガポール、香港などの地で日本語教育に携わりましたが、当時の「仲間たち」や教師養成講座の受講生の多くは、今日、世界各地で日本語教育の第一線に立っています。「新宿日本語学校」の草創期を共にしたこれらの人々のことを、私は片時も忘れたことはありません。

長くなりましたが、最後にエリノア・ジョーデン先生のことを少しだけお話いたします。本書の中で「形容動詞」が「名詞」として扱われていることについてみなさんが改めて驚かれることもないでしょうが、これを私はかつてジョーデン教授の「Nominal」——「名詞的なもの」から学びました。そして何よりも生きた日本語を教えるという先生の考え方から本当にたくさん薫陶を受けました。一九七六年に、先生が私たちの学校を訪ねてくださった時のことを思い出します。どんな些細な質問にもていねいに答えてくださり、それ以上に熱心に私たちを励ましてくださいました。直接先生の聲に接することができたのは私にとって何にもかえがたい思い出であり、日本語に対するその真摯な情熱は今日なお私を強く勇気づけてくれるものです。

未だ満足には遙かに遠い私の経験を正直に映して、本書もまた未熟で未完成なものでしかありません。まさに自分の恥をさらすようなものですが、志を共にする方たちのために、少しでもお役に立とうと思って筆を進めました。本書をお読みになって、もし私の経験から生まれたヒントなり考え方なりがみなさんにとって幾許かでもご参考になるとしたら著者としてこれ以上の喜びはありません。

オーデイン——日本語教師のための実践七講目次

前書きにかえて——私自身のこと……………

3

さあ、講義を始めましょう……………

15

1 何を教えるのか——愛される日本語を……………

17

日本語教育をめぐる環境の変化／ことばの自立を手助けする／日本語も作法も

2 どう教えるのか——文法主義の弊害……………

22

教科書とノートをしまいましょう／ことばが通じた時の喜び／国文法と日本語文法／話しことばの
文法／文法主義の弊害／国語という類まれな位置／日本人の心を伝える／日本語はあいまいなこと
ば？

第1講 会話を始める——呼びかけ・あいさつ……………

35

1 「日本語で話しますよ……」……………

37

会話のスイッチオン／日本人のあいさつ／日本語理解のパロメーター／ふうわりと軽やかに／音の
まとまり

2 ✓会話の潤滑油……………

45

定型フレーズから／外国人が当惑する「すみません」／ちよつとならぬ「ちよつと」／「ちよつとそこ
まで」／「ではまた明日」はあいさつ？／日本語らしいあいさつを／ことばを体験する

第2講 会話の幅を広げる——問いかけ・あいづち・応答……………

53

1 動機のあることばを……………

55

生きたことばを使って／「私は生徒です」なんて……／文法的には正しくても……／文を創造的に組み立てる

2 会話はことばのキャッチボール……………60

ことばは思考様式を映す／親和的な場の創出／そうですねとそうですか／あいづちの微妙なニュアンス／柔らかない響きを／あんまり——やんわりと断る／「しかし」と「でも」／「だけど」と「けれども」

3 生き生きとした会話を……………69

会話の表情をつくりだす／文の意味を決める「音」／つまったり考え込んだり……／「それと」は文をつなぐ／「そして」は最初に教えない／日本語の語彙の表現力／もう一度、リレーションシップ

第3講 ていねいに、そして正確に話すために……………77

1 人の呼び名と「こそあど」……………79

大切な人の呼び名／かわいそうな文法のマリオネット／「あなた」は使えないことば／彼と彼女に貼りつく意味／指示語の「こそあど」を使う／共通理解の確認

2 人の呼び名と「うちそと」……………86

距離には関係の親疎も／敬語と「うちそと」／名前で呼びかける？／「うちそと」の語彙／「うちそと」のヴェール

3 正確に——時と数のことば……………94

数は生活の基本／助数詞の細かな使い分け／ピールを一個？／助数詞は名詞とセットで／「一人前」「二枚目」「第三者」／数詞における和語と漢語

4 〈時数詞〉の教え方……………101

「時詞」——時点と期間／「時詞」の語彙／あいまいな日本語の時制／時制は〈時数詞〉とセットで／名詞——最初のステップ

第4講	ことが結びあつて(一)——文の成分	107
-----	-------------------	-----

1	三つの「文の成分」	109
---	-----------	-----

音と語彙から文へ／品詞分類の系統樹／三つの「文の成分」／「語のつなぎ」と「基本品詞」／〈述部〉と〈文末表現〉／〈修飾部〉と〈形容部〉／〈形容部〉で長文をつくる／「主語」はいろいろな／『緑の夢を見ませんか』／主語は何処に？

2	語のつなぎ——〈助詞(一)〉	122
---	----------------	-----

「文の成分」を定める／助詞はニュアンス／「文の成分」で大枠に分ける／「語を並べる助詞」／用言を並べる「て」／〈形容部〉をつくる助詞／日本語は形容詞が好き／〈形容部〉で複層の文を／デイスクリップの「の」／準体助詞の「の」／隠喩と枕詞の「の」

第5講	豊かに、そして適切に話すために	139
-----	-----------------	-----

1	〈なにに名詞〉と「形容語」	141
---	---------------	-----

「形容動詞」の「な」／〈なにに名詞〉／形容詞的な名詞／「有名な」と「無名の」／副助詞の「に」／日本語氣取りの漢語／外来語を受け入れる器

2	形容詞と副詞	151
---	--------	-----

〈活用〉は文例で教える／日本語の「活用」とは／五感の形容と表現／日本語は皮膚感覚的／「太い手」と「大きい手」／多いと多くの／形容詞をつくる／「先生は見にくい」／不適切な品詞名／副詞の名詞的性格／細やかな表現のために

第6講	ことが結びあつて(二)——修飾部	167
-----	------------------	-----

1	〈修飾部〉をつくる——〈助詞(二)〉	169
---	--------------------	-----

5 W 1 H の助詞／方向と場所の助詞／時間・時点を示す表現／国文法のアポリア／「が」と「は」は主語をつくる？／関心の「が」と話題の「は」

2 「が」と「は」——教え方のプロセス 176

「が」は狭く「は」は広く／主体の「が」と対象の「を」／対象を示す「が」／強い関心を示す「が」／「は」と「も」のセット／話題化(熟慮)「は」／「代役」と「代替」の「は」／文でつくられる〈修飾部〉〈述部〉／ことばが自然に溢れだす

第7講 ことばが一斉に動きだす 193

1 ことばが一斉に動きだす 195

日本語の文の二つの「型」／「述部型」の文と動詞／〈述部〉をつくる〈文末表現〉／〈文末表現〉は会話の要／「です」はていねい？／推量し依頼し伺いをたてる／「れる・られる」と「せる・させる」／「配慮」という含意

2 動詞——動作を表すことば 206

「行く」と「来る」／「ある」と「いる」／融通無碍な「いらっしゃる」／動詞をつくる／〈する名詞〉という動詞／〈する名詞〉をつくる

あとがき 216

《教室で》

「直接法」——音声学習の重要性	23
「直接法」の先進国、アメリカ	25
文法と「音のまとまり」	29
「直接法」と文法学習	31
普通の速さと普通の調子で(1)—— 拍と五十音図	40
普通の速さと普通の調子で(2)—— ピッチアクセント	43
普通の速さと普通の調子で(3)—— イントネーションとプロミネンス	44
「音」のジェスチャー(1)(2)	92
「音」はリエゾンする——	93
助数詞の音と読みの変化	96
文をふくらませるドリル練習	138
発音記号としての「かな」	152
「漢字」で語彙を整理する(1)	160
「漢字」で語彙を整理する(2)	165

《語彙と文例》

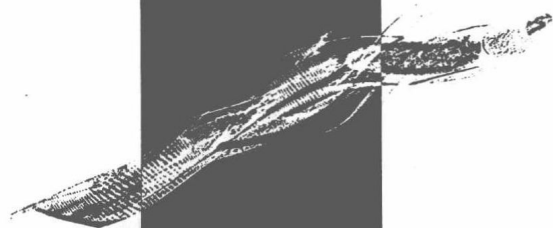
「呼びかけ」と「あいさつ」のフレーズ	49
「問いかけ」のフレーズ	62
「うちそと」の語彙	90
助数詞の語彙	96
助詞の用法と分類——	124
①語を並べる助詞	
②「形容部」をつくる助詞	49
③「修飾部」をつくる助詞	
④「述部・文末表現」をつくる助詞	
「形容語」の語彙	143
「形容詞」の語彙	144
「副詞」の語彙	147
主要助詞の用法のまとめ——国文法に照合させて	155
活用と文末表現の文例	156
複合動詞の語彙	162
「する名詞」の語彙	163
	150
	191
	204
	208
	213
	214

オーデイン——日本語教師のための実践七講

制 構 装

作 成 幀

端 大 松
野 本
正 竹
隆 樹 志



さあ、講義を始めましょう